

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	HUG CHILD 発達サポート教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的知識に基づき、児童の行動や発達の背景を踏まえた具体的な助言を行っている	行動観察と背景分析を丁寧に行い、根拠をもって説明している	専門的視点をより体系化し、支援内容の明確化を進める
2	現場で実践可能な支援方法を提案し、変化や成長につなげている	保育・教育現場の状況に応じた無理のない方法を提案している	成果事例を蓄積し、実践モデルとして共有できる体制を整える
3	訪問後のフォローを含め、継続的な連携体制を構築している	訪問後も電話等で情報共有を行い、支援の継続性を確保している	事前・事後の連携方法を標準化し、より安定した支援体制を構築する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問時間が限られており、十分な共有が難しい場合がある	訪問支援が短時間での実施となる構造的制約	事前共有シート等を活用し、限られた時間での効率的支援を図る
2	訪問先ごとの体制差により連携の深度に差が生じる	各園・学校の体制や業務状況の違い	訪問先の体制に応じた連携方法を整理し、調整機会を確保する
3	支援内容の整理や共有方法にさらなる工夫の余地がある	情報共有の仕組みが十分に体系化されていないこと	支援の流れ(事前・訪問・振り返り)を明確化し、共有方法を標準化する